

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価（3月25日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを実施し、生徒の思考力、判断力の伸長を図る。 単位制と学年制の利点が生かし、生徒の興味関心や進路に応じた科目選択が可能となるようカリキュラム・マネジメントを進める。 	<p>①新校を見据えた「単位制普通科の教育課程の在り方」を考察し、現在の科目体系や履修形態を改善する。</p>	<p>①柔軟な教育システムによる多彩な学びを実践しつつ、選択科目の開講基準を見直し、選択科目調査の集計結果から、閉講科目の決定と生徒の選択科目調整を段階的・計画的に行う。</p>	<p>①選択科目の開講・閉講を段階的にまとめ後期前半に確定させたか。また、生徒の選択科目の決定を年内に完了できたか。</p> <p>①多彩な学びを実現できたか。</p>	<p>①選択科目本調査の集計結果をまとめ、選択科目の開講・閉講の基準を見直した。教科、年次からの要望も確認したうえで開講科目を決定する。</p>	<p>①閉講になる科目の履修希望を出していた生徒の履修調整は年内をめぐり行う。</p>	<p>①ハイテク化し、100歳人生といわれる昨今、今後の進学・就職を問わずAI社会を生き抜くためにAI時代と向き合う必要がある。そこで、可能な限り「AI社会」を指導するような科目の配置も必要かと思う。人としてAI時代を生き抜く方法の指導を心掛けてほしい。</p>	<p>①選択科目の開講・閉講の基準を見直し、選択科目の開講・閉講を段階的にまとめることができた。</p> <p>変更希望の対応が統一できなかったため時間を要し、生徒の選択科目の決定を年内に完了することができなかった。</p>	<p>①各年次と選択科目変更の許可基準の周知を徹底し、年次と連携を図りながら進める。</p>
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識及び自己認識力と他者尊重の意識向上を図るための組織的な取組体制。 教育相談体制の充実 生徒の主体的な活動を通じて社会性や豊かな人間性を培う指導・支援体制の構築を図る。 	<p>①生徒の主体的な部活動への取組により、自己有用感の伸長を図る。また、働き方改革を含めた持続可能な指導体制となる校内組織を構築する。</p> <p>②生徒指導や規範意識の醸成などの指導を職員の共通認識と共通理解のもとで行うとともに、教育相談等の支援体制の充実を図り、生徒が安心・安全な学校生活を送れるように体制を再構築していく。</p>	<p>①生徒が主体的に部活動に参加するよう促し、部活動間の連携や交流を進め、社会生活の基本となるスキルを發揮する部活動である自覚を持たせる。また、組織的に部活動を継続的に支援できる校内システムを構築する。</p> <p>②安心安全な学校生活を送れるよう職員の共通理解のもとで交通安全指導、校内の巡回指導等を展開する。また、生徒への交通安全の啓発、防犯意識の向上を図る。</p> <p>②年次団で生徒情報を定期的に共有し教育相談コーディネーターを中心にコアメンバーで、ケース会議等、教育相談体制を組織的に展開する。</p>	<p>①部活動への生徒の参加状況を生徒への意見集約を行い、活動の充実度を検証できたか。職員からの意見集約を行い、持続可能な部活動であるか検証できたか。</p> <p>②校内の問題行動が減少したか。生徒の交通事故減少、盗難等の減少につながったか。交通安全への意識、防犯意識の向上へつながったか。</p> <p>②生徒相談体制を組織的に展開することができたか。</p>	<p>①部活動加入率70%程度と高加入率を維持している。また、1年次より、4月当初の加入だけでなく、随時入部がしやすい環境を作ることが必要ではないかとも意見をもらい、随時入部を促す掲示を行い、成果を得た。</p> <p>②職員の共通理解のもと交通安全指導・校内巡回指導等計画的に展開することができたが、トイレ等での落書きや破損、ロッカースペースでの鍵の破壊が数回続いた。</p> <p>②年次団で生徒情報を定期的に共有し教育相談Coを中心にSC、SSWと連携しながらケース会議等を開き、教育相談体制を組織的に展開することができた。</p>	<p>①部活動へ入部したが、途中で退部をする生徒も一定数存在する。その原因を分析し、対応していく必要がある。</p> <p>②HRでの情報共有、生徒からの情報提供を求めるとともに、全校放送・集会等で注意喚起を促す。校内巡回指導等でのコースや時間帯などを検討する。</p> <p>②サポートドックと教育相談アンケートを連動させながら、職員の負担にならないように生徒支援に繋げていく。</p>	<p>①時代状況、社会状況と自分との関係性、どう向き合っているのか。時代に対してどうスタンスで向き合っているのかを学生は見ている。そこを学校側から後押しすることで、自分から物事を考え、対応する力を養っていくことができる。期待している。</p>	<p>①夏休み明けなど年度初め以外の時期にも少人数であるが、部活動に入部する生徒を受け入れることができた。逆に途中退部者も一定数いるため、より意見交換を行いながら明示し、生徒の継続しやすい環境を整えていく必要がある。</p> <p>②職員共通理解のもと交通安全指導・校内巡回指導等計画的に展開することができた。安心安全な学校生活を送れるよう、ロッカースペースの鍵の管理の徹底を図る。</p> <p>②教育相談Coを中心にSC、SSWと連携しながら教育相談を展開した。</p>	<p>①生徒会主体で年度当初の部活動入部以外の時期に入部しやすい環境を整備する。また、年間を通じての部の活動計画・方針を生徒との意見交換を行いながら明示し、生徒の継続しやすい環境を整えていく必要がある。</p> <p>②校内巡回指導等でのコース変更や時間帯を検討し、生徒の防犯意識の向上を図る。</p> <p>②サポートドックと教育相談アンケートを連動させながら、生徒支援に繋げ、教育相談体制を組織的に展開していく。</p>
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を通じて、自らの課題に前向きに取り組む生徒を育成する。 組織的な進路指導を行うことにより、生徒のキャリア形成や進路希望実現を支援する。 	<p>①総合的な探究の時間において、進路に関する課題を解決するための取組を充実させる。</p> <p>②正確性・妥当性が担保された情報を収集し、その情報を効果的に活用する方法や留意事項等を指導する体制を構築する。</p>	<p>①ポートフォリオを活用しやすい様式に改め、総合的な探究の時間の取組みとの連携を図り、生徒間で情報共有を行う機会を適切に設ける。</p> <p>②ジャパンナレッジ school の試行版を導入し、活用のあり方及びその効果について検証する。</p>	<p>①グループワークや、探究成果発表会等の取組が、生徒一人ひとりの進路に関する課題の解決につながったか。</p> <p>②生徒一人ひとりが、進路に関する課題の解決につながる質の高い情報を収集することができたか。</p>	<p>①自己の興味・関心に基づき、探究のサイクルに沿った取組みを通して社会の形成者につながる視点を身に付けた。</p> <p>②教科・科目の授業や総合的な探究の時間において、情報収集のツールとしてジャパンナレッジ school を活用できた。</p>	<p>①探究のサイクル（特に情報の収集）の質には個人差があり、課題解決のための指導法の確立に努める。</p> <p>②ジャパンナレッジ school の活用頻度には個人差があり、活用のあり方について情報共有の機会を設ける。</p>	<p>①自分の専門領域に引き寄せられてどのように思うのか、ぜひ自分ごととして考えるヒントにしたい。</p> <p>②多くの大学は地域活動、地域活性化などに取り組んでいるので、その経験は生かされ、就職につながることも多い。進路先や社会で活躍している先輩が「出」の成果を「入り」の戦略に結びつけてほしい。</p>	<p>①2・3年次の個人による探究活動においては、社会の形成者としての視点の育成につながる指導を、エナジードコアや生成AIを活用しつつ、組織的に行うことができた。</p> <p>②信頼性・妥当性の高い情報を収集する重要性については徐々に浸透しつつあるが、ツールを活用するにあたっての有効性については引き続き検討が必要である。</p>	<p>①進路に関する課題を1年次の生徒に対しても意識させる指導をおこない、探究のサイクルを入学年次から経験させる指導計画を立案し、実行する。</p> <p>②現状の環境（学校図書館等）をより積極的に活用する等、信頼性・妥当性の高い情報の収集のための指導のあり方について引き続き情報収集を行う。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域との協働を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。 地域貢献活動や近隣校との交流等を通じた、開かれた学校づくりを推進する。 	<p>①②県立高校の設置目的を鑑み、地域からの要望を踏まえながら教育活動を行い、地域貢献の促進を図る。</p>	<p>①地域との交流事業を活性化し、生徒の地域理解を進め、地域活動への参加を促進する。</p> <p>②ホームページの活性化を図り、本校の魅力と特色について情報発信を進める。</p>	<p>①交流事業等へ生徒が主体的、積極的に参加できたか。等生徒からの意見集約を行い、検証ができたか。</p> <p>②ホームページ等での情報発信を定期的、かつタイムリーに行えたか。特に部活動の活動状況が充実したか。</p>	<p>①小中学校との交流事業(清掃活動、授業見学案内)、モーガン邸(文化財)の清掃活動、土囊作りなど地域貢献活動を学年単位で行えた。</p> <p>②ホームページからの発信を50件程度行い、情報の発信ができた。</p>	<p>①事業後の生徒からの意見集約が時間的な問題もあり、十分できていないことが課題である。</p> <p>②情報発信が特定のグループや部活に偏ってしまう傾向がある。学校全体の取組みがより一層必要である。</p>	<p>藤沢駅北口地下広場、モーガン邸など「地域密着型」取り組みを継続し、さらには藤沢市および周辺地域(寒川町、茅ヶ崎市)との連携の中から高齢者を中心に多世代交流、防災拠点化する構想に一步踏み出すなど地域の防災力を高めていく視点も大切にしたい。</p>	<p>①地域社会、学校とも交流事業は有意義であるとのアンケート結果はあるものの、職員・生徒の負担感もかなりある。持続可能な事業としての内容などの検討が必要である。</p> <p>②ホームページからの情報発信件数は増加することができた。今後、内容の充実をより図る必要がある。</p>	<p>①前例や例年どおりの慣習にとらわれることなく、事業の見直しをしていく。</p> <p>②一層のホームページ掲載の方法の簡素化を検討し、更新頻度を高めていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理体制の強化や個人情報の適切な管理取扱いを遵守する。 学校運営の効率化を図り、教職員が働きやすい環境を整備し、事故不祥事防止や教育活動の充実につなげる。 	<p>①安全管理に係るマニュアルの共通理解を図り、危機管理体制の整備に努める。</p> <p>②風通しの良い職場づくりに努めるとともに、全職員の意識を高め、事故不祥事を防止する。</p>	<p>①職員会議やチームズの掲示板により安全管理に係るマニュアルを共有し、各自の役割を周知する。</p> <p>②不祥事防止研修を有効に活用し、自分事として考え行動できるよう働きかける。</p>	<p>①職員間で情報共有がされたか。また、危機管理体制について地域と連携を関連付けて計画したか。</p> <p>②不祥事防止研修会等を実施したか。また、職員が自分事として考え意識を高めることができたか。</p>	<p>①職員会議やチームズの掲示板により安全管理に係るマニュアルを共有し、各自の役割を周知することができた。</p> <p>②不祥事防止研修を活用できている。</p>	<p>①引き続き職員間での共有を図り事故防止に努める。地域との連携については、さらに取組を深める必要がある。</p> <p>②不祥事防止研修を実施し、意識を高めることができていた。今後も継続し、不祥事を防止する。</p>	<p>常に改善する姿勢が大切と考える。継続して取り組んでほしい。</p>	<p>①安全管理に対する理解は深められたが、情報共有の方法等には改善の余地があると考えられる。</p> <p>②不祥事の事例をもとに理解を深めることができていた。</p>	<p>①地域との連携を含め防災意識を高める。</p> <p>②事故不祥事の事例をもとに、事故不祥事の防止に努める。</p>